

令和8年度人文社会科学研究所（一次募集）

農山漁村社会論（出題意図）

（産業システム創成専攻 環境・資源マネジメントコース 外国人留学生特別選抜）

農山漁村で生きる農家や資源管理を行う住民を取り巻く現状の幅広い理解と山積する課題の打開策の的確な理解を問うています。

問題1（解答例）

- (1) 人工林の保育管理を行わない場合、立木が混み合っ育ちが悪くなり、日光が十分に入らなくなります。そのため下層植生が繁茂せず、土壌の流亡、生物多様性の低下、雪害や風倒木の発生リスクの高まりが懸念されます。（100字）
- (2) 1940～1960年代の科学技術の進展より、農業分野では化学肥料、品種改良、農薬、農業機械の導入が進み、農地の区画整備も行われました。これによって穀物を中心に収穫量の増大、省力化の進展、一定品質の供給が可能となりました。（104字）
- (3) 面的一体性を持つ最小の社会単位。環境美化、冠婚葬祭、親睦会などの生活扶助と生産を補完する機能が進められています。全戸加入が原則でしたが、都市部とその近郊では未加入世帯も多く、一体性や結束力が低下しています。（103字）

問題2（正解）

ア ① イ ⑥ ウ ⑨ エ ⑩ オ ⑬

問題3（出題意図）

総務省による集落支援員と地域おこし協力隊について、開始された年次（2008年と2009年）、業務内容、役割、任期（地域おこし協力隊）、導入人数などが記載されていること。課題については、定着率がおおむね7割であることへの評価、単体での動きづらさなどが記載されていること。移住や定住に与える効果については、農山漁村での生業の1つとして効果があること、任期内に起業することができれば定住につながる余地があることなどが記載されていること。これら以外にも正当かつ論理的な記述・表現について評価します。